輝け商店街（8）

日専連名誉講師 富山短期大学名誉教授
川中清司

高岡市 イオン衝撃から復活めざす

高岡市は、昔から万葉の里として知られ、商都として栄えてきたが、超大型店イオンの出店で、大きな衝撃を受けた。

平成一六年三月に再開発総合ビル「ウイング高岡」の完成と、まちづくり会社「末広開発」の事業展開など、再生への出発を始めた。その二つを追ってみた。

年間予定来客数は一〇〇〇万人、売上高で二四〇億円を超えるとみられる超大型イオン。アミューズメント施設を併設した複合型SCが、平成一四年九月に開店した。

敷地面積一二万八〇九四平方㍍、店舗面積五万四二〇〇平方㍍、駐車場六万四五三四平方㍍（三六〇〇台）。特に、一〇～二〇歳代を中心としたヤング、二〇～四〇歳代のヤングファミリーをメインターゲットにした、一二〇の専門店が入居している。

設定している商圏は高岡市、新湊市、小杉町、福岡町、砺波市などの一〇市町村で、商圏人口は約四二万人（約一二万世帯）。

年中無休。JR高岡駅から、たえずバスが出て約八分、片道一六〇円で行ける。

富山県内の大型店の割合いは五〇%を超え、特に高岡市内では六〇%にふくれあがり、超オーバーストアー状態となっている。イオンと高岡サテイの距離は、わずかに一・五キロ㍍しか離れていない。

同SCの来客数は、平日で約一万八〇〇〇人、休日で約四万人とみられ、その分が、即、商店街の落ち込みにつながり、致命的な打撃となった。

過密度六〇%超、高岡市の大型店

施設名称	敷地面積 ㎡	店舗面積 ㎡	駐車台数 台
イオン高岡SC 高岡市	128,094	54,200	3,600
ファボーレ 婦中町	116,000	45,287	3,000
高岡サテイ 高岡市	31,653	23,813	1,382

高岡市の五八%が売上減少

最も影響の大きかったのは、高岡市内の既存の大型店と地元商店街だ。出店一年後の調査では、売上高が「減少した」が五八%に達している。

影響の内容は、高岡市で、客数の減少が四四%、客単価一四%減、粗利益減が一二%。

対応策については、四四%が「特になにもしなかった」と答えており、なすすべがなかった状況と言える。対応した中身は「接客サービスを充実させた」が二一%、「価格の見直し」が一四%、「お客さま情報によるサービス強化」と、「配達サービスに力を入れる」が、それぞれ一二%など、懸命の努力を続ける姿も浮き彫りにされている（高岡商工会議所調べ）。

交通事故が増加傾向

小売業の売場面積と、交通事故発生件数との相関関係が気になる。昭和五一年から平成一四年までの富山県の数値には、はっきりした増加トレンドが読み取れる。

富山県は一世帯当たりの自動車保有台数が多い。大型店の増加が自家用車による買い物行動を促し、結果として、交通事故発生の件数の増加に結びつく。

イオン高岡SCの開店後、主要地方道高岡小杉線および、戸出方面から、イオンに至る主要地方道高岡庄川線で、近年、交通事故の発生件数が増加傾向にある。

パートが増え 雇用者所得はマイナス

平成九年から一四年の五年間で、小売業の従業者数は七万四七六人から七万六八九八人と、六四二二人増加した。このうちの約三分の二は大型店によるものだ。

過去一〇年間に出店した一万平方㍍以上の大型店で、約四七〇〇

人が増えた。正社員は一九〇〇人で、臨時が二八〇〇人。しかしその反面、既存の小売店が、販売額減少に伴って失った従業員の数は、三七〇〇人とみられる。

正社員が減り、パートタイマーなどの臨時が増えており、結果的には、雇用者の全体所得の増加が約九八億円、減少が約一〇〇億円となり、差引きマイナス傾向とみられる。

憂慮される社会への影響

巨大SCの出現は、中心部の商店街の売り上げを激減させ、廃業を加速化させる。歯抜けのシャッター通りは魅力を失い、人影がまばらとなり、治安にも影響がでる。

空き店舗が多い駅前商店街

無秩序な大型店の開発が中心市街地を空洞化させ、都市の崩壊も懸念される。これは既存の小売店の問題だけではない。

イオンの出店と街の影響について、視察に来る人も少なくない。鯖江市の区長連合会も現地を訪れ、会長の内田正次郎さんは、「予想したよりも商店街の閉店が多く、イオンの影響が大きいのに驚いた」と話し、このままでは「市民生活に影響をもたらすのでは」と不安を募らせていた。

活性化のシンボル・ウイング高岡

まちの活性化のシンボルとして、平成一六年三月、再開発ビル「ウイング高岡」が完成した。

JR高岡駅の真ん前。万葉線やバスなどの結節点に建ったこのビルは、一四階建ての民間施設棟と、一二階の公共施設棟をドッキングした、ユニークな複合ビルだ。

総事業費一六二億三七〇〇万円。延べ床面積三万一九〇〇平方メートル。高岡駅前西第一街区市街地再開発事業として行われた。

ビルの利用度は高く、市内外からの多くの人びとで賑わっている。

高校や放送会社も入る複合ビル

ビルの入居者は、公共施設では県の生涯学習校、市の生涯学習センターや図書館、男女平等推進センターのほか、飲食・サービス施設、八階には県立志貴野高等学校も入っている。六階から一四階に、ホテル、五階から下には三井住友海上火災、北日本放送など一二社が入る。

ビルの管理運営は、末広開発（株）が担当するが、テナントは満杯で経営成績は良好。

運営成果上げる「末広開発」TMO事業に一億円

末広開発（株）は、第三セクターのまちづくり会社で、高岡商工会議所から移管されたTMOも担当する。

スタッフは会議所から部長と次長の二人、経済界から三共立山アルミ、トナミ運輸、伏木海陸運輸の三社から三人が出向。高岡市からは中心市街地活性化担当者など二人が常勤し、充実した人材を備えている。

平成一八年度のTMO事業費は、総額九九七二万円を盛り、その内、高岡市が五一二六万円を負担する。

高岡七夕祭り、日本海高岡べ祭りには二六七〇万円を投入するなど、多面的な事業を展開している。

今年六月、代表取締役専務となった室谷泰弘さんは、高岡市の元収入役で、都市整備部長も務め、まちづくりと財務の両方に詳しい。「平成一八年度業績は、五七〇〇万円の利益をあげた」と、好調な業績を話す。

県の近代化資金借入残額一二億円は、来年六月から一五年間の弁済が始まるが、「売り上げは四億八〇〇〇万円、生涯学習センターの指定管理者分の一億四四〇〇万円などもあり、見通しは明るい」と言う。

全国で初めてアイトライム（路面電車）を導入

路面電車は、まちの活性化に欠かせない。JR高岡駅前から市内を通って新湊市をつなぐ万葉線は、半世紀近く加越能鉄道（株）で運行してきた。しかし、利用者が減って、一時廃止も検討されていたが、県の支援と高岡、新湊両市民の協力、参加が実り、第三セクター万葉線（株）で運行が決まった。

三セク会社で運行する万葉線アイトライム

一五分間隔で出ており、高岡市と新湊市を結ぶ一二・八キロを四〇分で走る。万葉線の新型車両は全国に先駆けて、平成一六年一月に導入された。真っ赤なデザイン。県の支援と高岡、新湊両市民の参加、協力が実り、広々とした車窓からの見晴らしがきき、女性運転手さんの感じも良い。

全長一八・四メートル、幅二・四メートル、高さ三・四メートルの二連接低床車。乗車定員は八〇名。富山市のライトレールと同じ大きさだ。次第に乗客も増えている。

基本計画でまちなか居住推進

市街地活性化協議会は、今年五月二八日に「中心市街地活性化基本計画」意見書を市長に提出した。

計画によると対象区域は平米、定塚、下関など、七地区で構成する約三四〇ヘクタールで、短期的な戦略は「世界文化遺産への取り組み」や「まちなか居住の推進」など三つの柱をすえる。

五年間で達成すべき目標として、観光客入込み数を現状の一七九万人から二五二万人に、居住人口や歩行者通行量は、現状を維持するが、空き店舗率は二三・一%を二〇%以下に下げる。

求められる消費者の意識転換

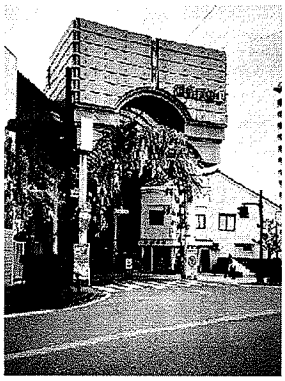
中心地がさびれ、商店街が輝きを失うと、アッパーミドル（中流階級・中流階級の上位）が住んでいた街の優良住宅地も、若手に敬遠され、郊外の新興住宅地を選ぶ。夫婦二台のマイカーで行動範囲は広く、当然に日常の買い物も大型店に向かう。

それに加えて、学校や病院など、行政のハコモノも郊外へ拡散していく。ますます中心地はさびれ、機能を失っていく。

その結果、行政コストははね上がる。道路の新設、維持、補修から水道の布設、ゴミ収集コストは増加し、警察の警備範囲も拡大し、手薄となる。中心部の小学校は児童数が減り、郊外に新築を余儀なくされる。

人口が減り高齢化が進む中で、市民所得が減り、自治体の税収も減り、滞納が増える。財政難から自治体職員を減らさざるを得なくなり、市民サービスは低下していく。こうした悪循環を断ち切って、住みやすいコミニュティーをつくるには、消費者の意識を変え、自治体の政策を転換へとつなぐことだ。

戦う専門店 二〇〇年の老舗も健在


活気の乏しい御旅屋商店街

御旅屋通り商店街は、シャッターを降ろした店が増え、めっきり寂しくなった。名物の大仏さんも工事中のせいか、なんだか元気なく見えた。大和百貨店の真ん前の家電店も閉まっていた。

そんな中でも頑張っている店がある。Gentory Shop ヤナギヤの主婦は、「結婚して四七年、こんなひどいのはじめて」と厳しさを訴えながらも、「毎月、集まって勉強会してます」と、表情は明るく真剣さがみなぎる。店の前には、華やかな、ゆかた姿の娘たちがはしゃいでいた。

大福院通りの村松屋は、琴・三味線の老舗。麻のれんの間から見える店内には、和楽器がずらりと並んでいる。

「今年は二〇〇年の創業祭を企画中です」と店長の作田光子さん。

メガネ工房スミタニ、ヨシエスポーツウエア館、銘茶の伊東園、タカバメガネ、高岡仏壇、加藤物産の祐光堂など、いずれも活気があり健在だ。

（次回は富山市）

村松屋は二〇〇年の老舗。琴、三味線を扱う。